

ふるさと講座 歴史系のお知らせ

幻の町キラクを訪ねる！ ～野付通行屋・番屋跡遺跡～

●日 時 平成22年4月18日（日）
午前10時～13時

●場 所 野付半島
（集合は、野付半島ネイチャーセンター2階）

●講 師 別海町郷土資料館 主査 石渡一人

●集合等 野付半島ネイチャーセンター2階へ10時までに集合してください。
遺跡入口までの移動は、当館で行いますが、遺跡を往復するため5キロほど歩きます。

●定 員 15名（電話・FAX・メールにて氏名・電話番号をご連絡ください。）

●持物等 防寒着、長靴は必ず着用ください。必要に応じて飲物などを持参ください。



野付通行屋跡遺跡

歴史系「幻の町キラクを訪ねる！～野付通行屋・番屋跡遺跡～」の見所

「野付半島先端に幻の町キラクと呼ばれる歓楽街があったという」伝説が、明治の頃からこの地方に語り継がれ、報道機関でも度々取り上げられています。

伝説の時代背景は江戸時代末期で、文献史料では国後島へ渡るための要所として、寛政11年（1799）に幕府によって野付通行屋が設置され、通行屋、下宿所、蔵などが建てられました。さらに野付崎の外海は、春の鯨漁の時期になると根室地方の各番屋から人々が集まり、居小屋、蔵などが50～60軒建ち並び出張番屋群が形成されました。しかし、「キラク」の文字は文献史料には登場しません。野付通行屋や番屋群、それらに関わる人々の営みがあったこと等がこの伝説を作り上げたように思われます。

野付通行屋跡遺跡は、自然崩壊の恐れのある遺跡として平成15～17年度にかけて遺跡のおよそ半分を発掘調査しています。残り半分は今も保存され、建物跡やお墓、畑跡などを見ることができます。

野付番屋跡遺跡は、もはや海の下で潮がひいた時に姿を現し、食器や鉄鍋などの生活用品が散乱しています。早春の野付半島を歩き、江戸時代の頃の様子を想像してみませんか？



野付通行屋跡遺跡に残る墓石



野付番屋跡遺跡の食器等の散乱状況

「オジロワシ・オオワシ観察会と 古代竪穴住居跡をめぐる！」の様子

3月14日（日）快晴で、絶好の観察日和となりました。講師は渡辺昇氏（町郷土研究会会長）で、室内での説明のあと風蓮湖に向かいました。目的のオジロワシ・オオワシは期待通りたくさん観察することができましたが、何と言っても一番驚かされたのはエゾシカが大群でした。道内では増加のため森林や農地での食害が問題になっていますが、こういった事を改めて考えさせられた光景でした。また、古代竪穴住居跡は風蓮湖岸の本別海1遺跡を見学し、大小様々な窪みを観察する事ができました。



近世の別海を探る 「西別川河口から南、風連湖内」～その2～

トラエトキ

文献史料での表記は、「トラコト」「トラエトキ」「トライエトコ」などがあります。

地名の由来や地勢が書かれた文献資料は下記のものだけであり、その他は地図上や地名のみ記述されています。

○地名の由来

☆〔トラエトキ〕

・「むかし川口此処に有し由」

『午手控』松浦武四郎 安政5年(1858)

☆〔ト ライ エトコ〕

・「涸沼ノ鼻先キ「トー、ラ、エトク」ハ「トーライ、エトク」の急言ナリ」

『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)

○地勢・建物など

前期松前藩時代 18世紀後半

☆〔トラコト〕

・「此處山遠く野ツノキ木ナシ砂濱行」

『松前東西地理』高橋壮四郎ほか 寛政9年(1797)



『別海町管内図5万分の1』別海町役場



別海町郷土資料館だより No.129

発行日 平成22年4月2日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

今年度のふるさと講座歴史系第1回目は、4月の草が伸びない時期にしました。細かな地形の変化がわかり、遺跡の様子もよくわかると思います。少し寒いと思いますが、ぜひ、ご参加ください。(K.I)